果，I型22例，II型26例，III型10例，IV型29例，V型2例であった．

2) 臨床的に正常圧水頭症の疑われた29例中，IV型を呈したものは15例 (51.7%) で，残りの約半数は他のパターンを呈した．

3) CT 上脳室拡大の認められた19例ではI型3例，II型8例，III型1例，IV型7例，V型0例で，脳槽シンチにても異常なパターンを呈するものが多くみられた．

4) 左右不均等分布を呈したものは28例あり，うち病側が Increased activity を呈したものは12例，Decreased activity を呈したものは16例であった．

6. ^{99m}Tc-MAA の脳スキャンへの応用

○角田　隆巳　　森重　福美
山下　和好　　小野　素明
(福岡鳥飼病院)

脳卒中，頭部外傷，てんかん，脳腫瘍等の症例に，^{99m}Tc-MAA を頸動脈に注入して，脳の血流分布を検討した．使用した MAA の粒子サイズは，10～100 μ のものである．

頸動注された ^{99m}Tc-MAA は，脳の細動脈に一時的に捕捉されて，脳の血流分布を反映し，臨床所見とよく一致した．Main cerebral artery のみならず，CAG で捕捉できない小動脈の梗塞領域をも表現でき，前及び中大脳動脈 (ACA & MCA) 域の検索に有効な手段である．Space occupying lesion は，inradioactive area として，及び radioactive area として表現される二つの場合があった．Emergency には，angiography に優先して実施した．適用症例は，延べ200例に達したが，アナフィラキシー反応，頭痛，嘔吐，心悸亢進等の副作用は，殆んど認められなかった．^{99m}Tc-MAA による脳スキャンは，頭部疾患の阻血野の検索に，極めてすぐれた検査法と思われる．

座長のまとめ (3～6)

仲山　親

(3) RCC 発行の Kit を使用し，基礎的臨床的検討を行っている．intraassay では 4.9% 以下，interassay では 9 %以下のバラツキを示しており，3 μU/ml 以下では測定できていない．回収率は96%から100%であり，従来の Kit との比較を 67例につき行い，相関係数は 0.96 であった．また，従来のキットと比較して少し高い値を示しているが，HCG と交叉性があるためのようである．

(4) 手術予定のバセドウ氏病患者に $^{99m}TcO_4^-$ 1mCi 静注30分後にNeck/Thighのカウントを測定し，術中の甲状腺／血液比を測定し，前記のものと相関をみているが，0.9583 の相関を得て，Neck/Thigh ratio が甲状腺機能の評価に有用であるとしている．

(5) NPH を疑って施行した89例の分析を行っている．McCullough に従い 5 型に分類し，また，CT との比較を若干例について行っている．

(6) 平均 60 μ の直径をもつ ^{99m}Tc-MAA を頸動脈より注入しシンチグラフィーを行っている．脳梗塞部は RI 集積の低下として，また，腫瘍の場合は集積が低下する場合と増加する場合を認めている．副作用は 200 回に 1 回位であった．

7. 骨シンチグラフィ上いわゆる "cold" lesion を呈した症例の臨床的検討
——とくに転移性骨腫瘍について

○佛坂　博正　　藤村　憲治
安永　忠正　　福井康太郎
片山　健志
(熊大・放)
別府　進
(三井病院・放)

いわゆる "cold" lesion を呈した症例は28例で，肺癌・乳癌・子宮癌などにみられ，部位として骨盤・肋骨・胸椎・腰椎・頭蓋・胸骨に多くみられた．cold area のみを示す場合は胸椎・腰椎に多く，cold area の周囲に hot area を伴う場合は骨

Presented by Medical*Online